

当社はインターネットのホームページで、最新の企業情報を提供しておりますので、どうぞご利用下さい。

アドレス <http://www.sekisuijushi.co.jp/>

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月
基準日 株主総会 毎年3月31日
 期末配当金 毎年3月31日
 中間配当金 毎年9月30日

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座管理機関

同連絡先 〒541-8502
 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
 三菱UFJ信託銀行株式会社
 大阪証券代行部
 電話（通話料無料） 0120-094-777

公告の方法 電子公告
 当社のホームページに掲載いたします。
 アドレス <http://www.sekisuijushi.co.jp/>

<ご注意>

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合わせ下さい。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意下さい。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記連絡先までお問合わせ下さい。なお、三菱UFJ信託銀行本支店でもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でのお支払いいたします。

第84期報告書

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで



防音壁

防音効果の高さや眺望性に優れたアルミ枠透明板が評価され高規格道路に採用されました。

（新名神高速道路）



当社は、「国連生物多様性の10年日本委員会」の取り組みに協賛しております。



当社は、「公益財団法人交通遺児育英会」の活動に協賛しております。



代表取締役会長 兼 CEO
福井 彌一郎



代表取締役社長 兼 COO
馬場 浩志

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。さて、当社第84期報告書をお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当期のわが国経済は、企業収益が引き続き安定して推移し、個人消費も持ち直しの兆しが見られましたものの、原材料価格の高騰や人材不足の影響に伴う生産・物流コストの上昇並びに自然災害、海外諸国における地政学リスクをはじめとする政治・経済の動向が懸念される等、依然として先行き不透明な状況が続きました。

このような経営環境下において、当社グループは、「経営ビジョン2020」の3rdステージとなる「中期経営計画」を達成すべく“総合力・巻き込み力・スピード力”をキーワードに諸施策を推進しており、当社の強みである幅広い製品群と販売網を最大限に発揮すべく、新規事業領域の基盤構築に重点を置くとともに事業部門間の連携強化を行い、当社コア技術を横断的に活用した新製品開発や新規顧客開拓を積極的に行いました。

特に当期におきましては、新たに開通しました高規格道路への防音壁製品の採用に向けて、顧客からの高い品質要求に対応した製品開発と併せ生産供給体制を他社よりも先行し強化したことにより、業績拡大に大きく貢献いたしました。

一方、原材料価格の高騰に対応すべく製品価格の改定を行なうとともに、戦略購買や生産コスト低減活動に最大限取り組むなど、国内・海外のグループ経営においてメリハリのある諸施策を実施し、収益性を重視した事業活動を推進してまいりました。

当期の連結業績は、売上高は688億4千万円(前期比1.5%増)、営業利益は103億4千5百万円(前期比4.4%増)、経常利益は107億8千6百万円(前期比5.8%増)となり、親会社株主に帰属する当期純利

益は72億1千7百万円(前期比9.7%増)となりました。

当期の期末配当金につきましては、4月24日開催の取締役会におきまして、株主の皆様の日頃のご支援にお応えすべく、連結業績並びに配当性向等を勘案いたしまして普通配当21円に特別配当2円を加えた1株につき23円とさせていただきます。この結果、中間配当金21円と合わせた当期の年間配当金は、前期に比べて6円増配の1株につき44円(9期連続の増配)となりました。なお、連結配当性向は27.1%となり中期経営計画の目標値を早期に達成いたしました。

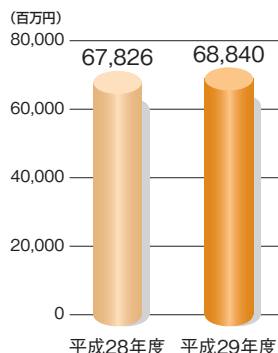
今後の経済情勢は、国内での人材不足や原材料高騰の影響に伴う生産コスト・物流コストの上昇に加え、貿易摩擦への懸念や金融・為替市場の変動により、経営環境は依然不透明な状況が続くものと予測されます。

このような情勢下、「中期経営計画」3年目となる今年度を重要な年度と位置づけ、当社グループの“総合力”を最大限に発揮し最終年度に向けて加速すべく、2020年の東京オリンピック・パラリンピック関連などの主要な国内イベントやインバウンド需要及び人手不足対応などに向けて付加価値の高い新製品開発や新たな顧客開拓に取り組んでまいります。

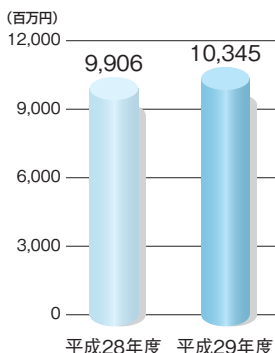
さらには、中長期的な企業価値の向上を図るべくESG(環境・社会・ガバナンス)経営を実践するとともに、働き方改革や生産性向上に向けたIT技術の活用、省人・省力化に対応した設備投資を積極的に推進するなど「経営ビジョン2020」の実現に向けてグループ一丸となって鋭意邁進してまいります。

何卒 株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

■ 売上高の推移



■ 営業利益の推移



交通・景観関連製品：防音壁材は、防音効果の高さや眺望性に優れたアルミ枠透明板が評価され、新名神高速道路をはじめとする高規格道路向けに採用となり大幅に売上伸長しました。また、高速道路下部に設置する裏面吸音板は、軽量で橋梁の点検を容易にするパネル構造の新製品が首都高速道路のメンテナンス工事において評価され売上増に寄与しました。交通安全製品は、車線分離標「ポールコーン」が一般道の歩行者横断抑止対策や道路仮設工事に採用されましたものの、昨年集中していた高規格道路における逆走防止対策が一段落したことにより低調に推移しました。

路面標示材は、グループ会社と連携して販売及び供給体制の強化を行ったことが売上伸長に寄与するとともに、舗装工事における仮設ラインの需要が拡大し順調に推移しました。防護柵は、各地域の歩道並びに街路整備において歩行者用防護柵「フレックスロープ」が売上を伸ばしましたものの、公共予算縮減の影響を受けて前年を下回る成績となりました。高欄も橋梁本体の補修事業に予算がシフトしたため大幅な減少となりました。また、人工木材製品は、需要減速の影響を受け売上減を余儀なくされました。一方、シェルター製品は、バリアフリーに配慮した設計と意匠性の高さが評価され、病院施設や駅前整備事業に採用となり売上を伸ばしました。

スポーツ施設関連製品：グラウンド用人工芝「ドリームターフ」は、耐久性・機能性に優れた製品が運動公園やサッカーグラウンドに採用されるとともに、小学校の施設整備において温度上昇抑制機能や安全性が評価され大幅に売上伸長しました。さらには、スポーツ用品メーカーと共同開発した野球専用人工芝がプロ野球フロンチャイス球場の「ZOZOマリスタジアム」「京セラドーム」に採用され売上拡大に寄与しました。

住建材関連製品：メッシュフェンスは、大型商業施設や太陽光発電施設の物件減少もありましたが、集合住宅や物流施設・工場等に幅広く採用されました結果、前期並みとなりました。一方、防音めかくし塀は、居住地域などにおける幼稚園・保育園等の騒音対策として採用され好調に推移しました。さらに、防犯ニーズに対応した縦格子フェンスやデザイン性に優れた自転車置場が大きく売上を伸ばしました。装飾建材は、訪日外国人の増加を受けて宿泊施設や複合施設向けに受注増加となりましたが、チェーン店をはじめとする店舗用途向けが縮小し売上減となりました。

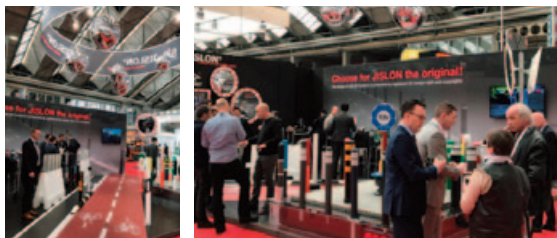
総合物流資材関連製品：ストレッチフィルム包装機は、工場・物流施設内などの人手不足による省人・省力化ニーズの高まりを背景に顧客要望に対応した全自動機の新製品開発や提案営業を積極的に取り組み大幅な売上伸長を示しましたが、梱包結束用バンドの需要減少などにより低調裡に推移しました。

アグリ関連製品：農業支社は、野菜の作付面積増加や個別の栽培方法に特化した製品が売上を伸ばすとともに、高い防錆効果をもつ農業ハウス用資材「パイライン」が評価をいただきましたが、園芸製品の販売不振により前年を下回る成績となりました。

その他製品：アルミ樹脂積層複合板は、住宅メーカー向け製品の売上が低迷したものの、都市再開発事業におけるビル建替え需要等により売上伸長しました。組立パイプシステム製品は、主力の自動車・電機・電子分野向けの需要増加を受けるとともに、食品・物流分野において顧客ニーズへの対応強化により好調な成績を収めました。自動車部品関連製品は、自動車メーカーの新規物件の受注が停滞し低調に終わりました。デジタルピッキングシステム製品は、人手不足対策の需要を受け、ネット通販・食品・アパレル物流向けの売上が堅調に推移したものの、大口物件の受注減少により売上減を余儀なくされました。

主要営業品目	
交通・景観関連製品	路面標示材、遮熱性舗装、コンクリート片はく落防止システム、道路標識、サイン、看板、防音壁材、交通安全資材、電子システム関連製品、歩行者用防護柵、車両用防護柵、防風・防雪柵、車止め、組立歩道、高欄、公園資材、シェルター、ソーラー照明灯、人工木材等
スポーツ施設関連製品	人工芝（校庭、サッカー・フットサル、野球、ラグビー、アメリカンフットボール、フィールドホッケー、テニス、ランドスケープ用途）、人工芝フィールド高速排水システム等
住建材関連製品	メッシュフェンス、めかくし塀、防音めかくし塀、外構製品、自転車置場、装飾建材、機能面材、手すり製品等
総合物流資材関連製品	梱包結束用バンド・フィルム、梱包資材、梱包機械等
アグリ関連製品	農業資材、施設園芸資材等
その他製品	アルミ樹脂積層複合板、組立パイプシステム、デジタルピッキングシステム、自動車部品関連製品等

■「インターラフィック・アムステルダム2018」への継続出展



2018年3月にオランダで開催されました世界最大の道路交通インフラの展示会へ交通安全製品を中心に出品し、多くの方にご来場いただきました。

■「Architect'17」への継続出展



2017年5月にタイ王国バンコクにて開催されました建材及び住宅設備の展示会に、アルミ樹脂積層複合板及び装飾建材事業の拡大を図るべく、前年に比べ展示ブースを拡張し出展しました。

■複数のプロ野球フランチャイズ球場に人工芝が採用



(京セラドーム大阪)



(ZOZOマリンスタジアム 撮影：コイト電工様)

スポーツ用品メーカーと共同開発した野球専用人工芝が、プロ野球フランチャイズ球場「京セラドーム大阪」「ZOZOマリンスタジアム」に採用されました。

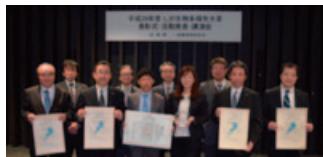
■人工木製品等が「御堂筋パークレット社会実験」に採用



道路空間に人工木製品のウッドデッキやベンチを配置した休憩施設「パークレットシステム」が、「御堂筋パークレット社会実験」に採用されました。

(大阪府)

■「平成29年度 しが生物多様性大賞 協働部門」を受賞



「生物多様性 湖東地域ネットワーク（滋賀県 湖東地域における企業4社：旭化成株式会社、旭化成住工株式会社、積水樹脂株式会社、株式会社ダイフク）」は、業種の異なる企業が連携し、それぞれの事業所において広域を移動するトンボをテーマにした生物多様性保全活動を行っていることが評価され受賞しました。

製品紹介

交通安全製品・路面標示材

(石川県)

「ボールコーンルミ」が、夜間の視認性の高さを評価され、道路線形が曲線となる危険箇所などで採用されました。



<昼間>



<夜間>



<サービスエリア内>



<本線合流箇所>

<サービスエリア入口>



高速道路の本線合流箇所やサービスエリアにおける逆走防止対策として路面標示材やボールコーンが設置されました。

裏面吸音板



軽量で橋梁の点検を容易にするパネル構造の新製品が、首都高速道路のメンテナンス工事において採用されました。

(東京都)

シェルター

高齢化社会のニーズに伴い雨天時の車への乗降のしやすさに配慮した構造の通路シェルターが、病院施設や駅前整備事業に採用されました。

(福岡県)



メッシュフェンス・防音めかくし堀



デザイン性・施工性が評価され集合住宅・物流施設などに設置されました。

(千葉県)

居住地域などにおける幼稚園・保育園等の騒音対策として好評を博しました。



(群馬県)

(埼玉県)

組立パイプシステム

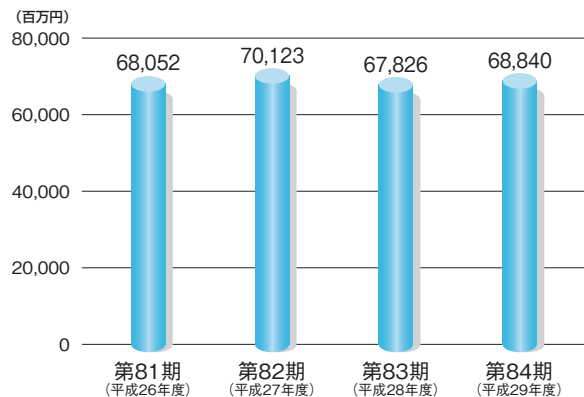


(埼玉県)

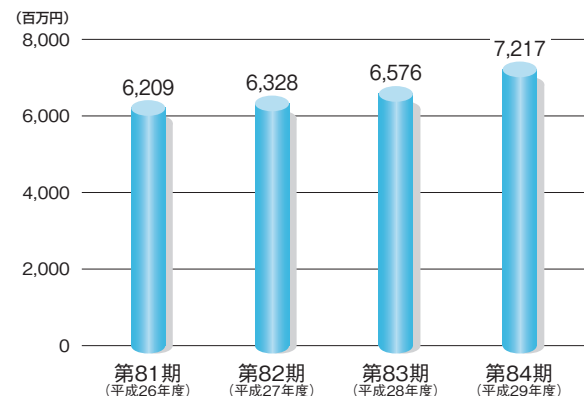
大型農業ハウスにおける作業の省力化・効率化を進める中で、軽量で加工しやすい製品として評価されました。



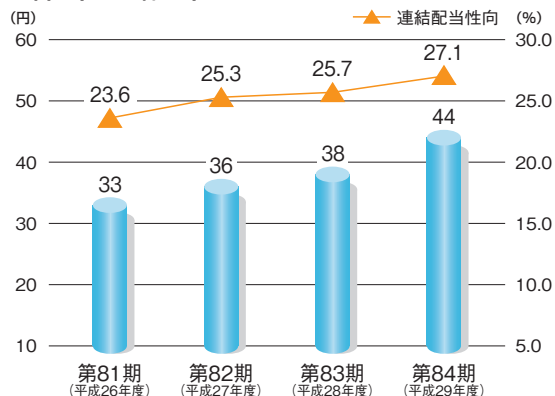
■ 売上高



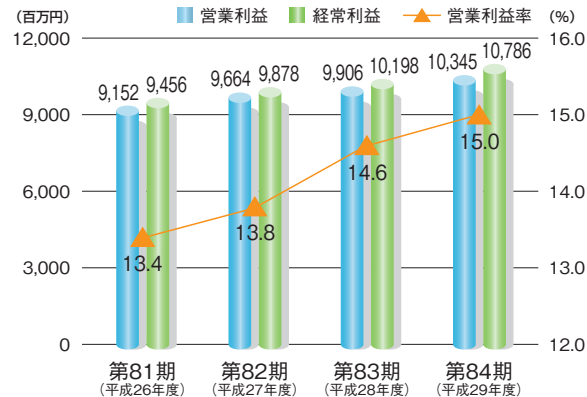
■ 親会社株主に帰属する当期純利益



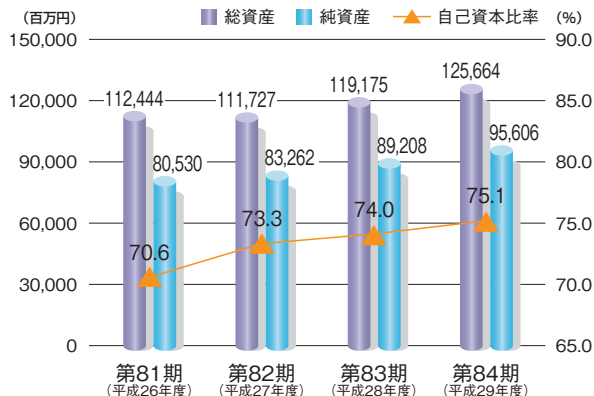
■ 一株当たり配当金



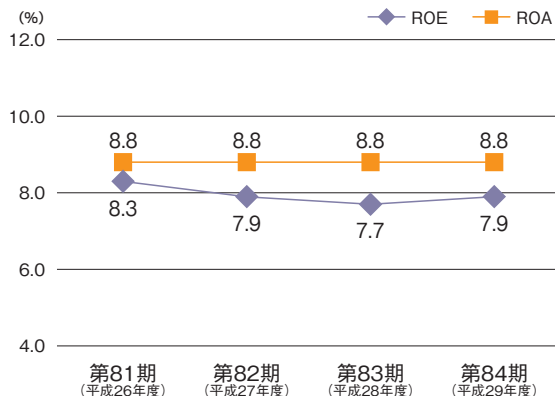
■ 営業利益 / 営業利益率 / 経常利益



■ 総資産 / 純資産 / 自己資本比率



■ ROE / ROA



連結貸借対照表 (要旨)

(単位：百万円)

科 目		当連結会計年度 (平成30年3月31日現在)
(資産の部)		
流 動 資 産		76,588
固 定 資 産		49,076
有 形 固 定 資 産		15,074
無 形 固 定 資 産		148
投 資 そ の 他 の 資 産		33,852
資 産 合 計		125,664
(負債の部)		
流 動 負 債		25,420
固 定 負 債		4,636
負 債 合 計		30,057
(純資産の部)		
株 主 資 本		89,521
そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額		4,908
非 支 配 株 主 持 分		1,176
純 資 産 合 計		95,606
負 債 及 び 純 資 産 合 計		125,664

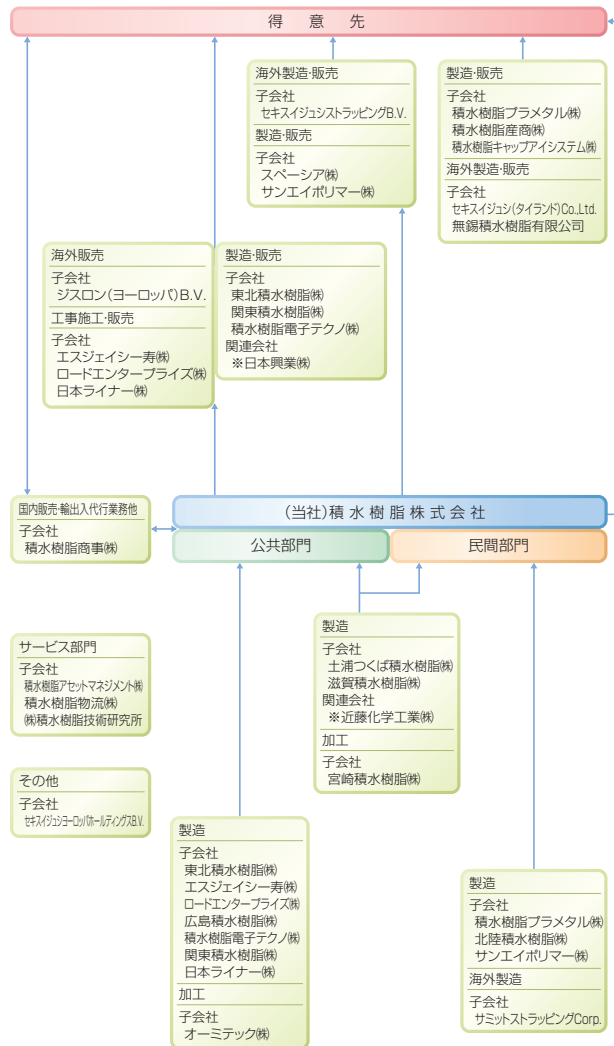
連結損益計算書 (要旨)

(単位：百万円)

科 目		当連結会計年度 (平成29年4月1日から 平成30年3月31日まで)
売 上 高		68,840
売 上 原 価		46,951
売 上 総 利 益		21,889
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		11,543
営 業 利 益		10,345
営 業 外 収 益		620
営 業 外 費 用		178
経 常 利 益		10,786
特 別 利 益		74
特 別 損 失		211
税 金 等 調 整 前 当 期 純 利 益		10,649
法 人 税 等		3,303
非支配株主に帰属する当期純利益		128
親会社株主に帰属する当期純利益		7,217

当社及び当社の関係会社（当社、国内子会社22社、海外子会社11社、関連会社3社、その他の関係会社1社の38社／平成30年3月31日現在）においては、公共部門、民間部門の2部門に関係する事業を主として行っております。

各事業における当社及び当社の連結子会社並びに持分法適用会社の位置付け等は次のとおりです。



※持分法適用会社

○ 株式の概況 ○

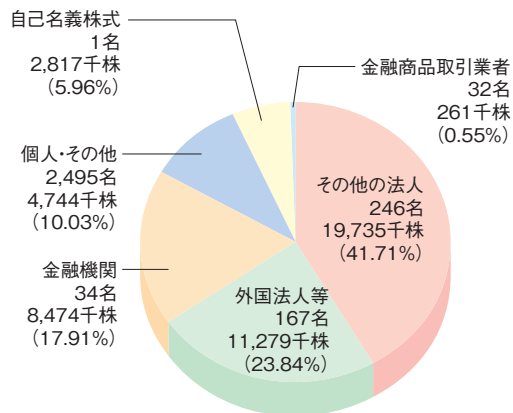
(平成30年3月31日現在)

発行可能株式総数	128,380,000株
発行済株式の総数	47,313,598株 (うち、自己株式2,817,680株を含む)
単元株式数	100株
株主数	2,975名

■ 大株主

株主名	持株数 千株
積水化学工業株式会社	10,570
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,792
第一生命保険株式会社	1,332
積水化成工業株式会社	1,266
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,061
積水ハウス株式会社	991
樹栄会持株会	724
GOVERNMENT OF NORWAY	719
タキロンシーアイ株式会社	620
NORTHERN TRUST CO.(AVFC) RE HCROO	619

■ 所有者別分布状況



○ 役員 ○

(平成30年6月28日現在)

■ 取締役

代表取締役会長	福井 彌一郎
代表取締役社長	馬場 浩志
社外取締役	涌井 史郎
社外取締役	入江 梅雄
社外取締役	高野 博
取締役	柴沼 豊
取締役	浜田 潤
取締役	佐々木 英至

■ 監査役

常勤監査役	河原林 隆
常勤監査役	早川 直樹
社外監査役	長沼 守俊
社外監査役	佐々木 茂夫
社外監査役	大仲 土和

■ 執行役員

社長執行役員	馬場 浩志
常務執行役員	柴沼 豊
常務執行役員	中野 輝雄
常務執行役員	森山 弘雄
執行役員	浜田 潤
執行役員	佐々木 英至
執行役員	小山 智久
執行役員	高林 周一郎
執行役員	菊池 友幸
執行役員	佐々木 克嘉
執行役員	三好 永晃
執行役員	東 仲雅行
執行役員	西 尾重亮

○ 会社の概要 ○

(平成30年3月31日現在)

■ 設立年月日	昭和29年11月26日
■ 資本金	12,334百万円
■ グループ従業員数	1,422名
■ 事業所	

本社：大阪市北区西天満二丁目4番4号

東京本社：東京都港区海岸一丁目11番1号

支店：関東第一支店（東京都港区）

関東第二支店（東京都港区）

近畿・北陸第一支店（大阪市）

近畿・北陸第二支店（大阪市）

中部支店（名古屋市）

九州支店（福岡市）

東北支店（宮城県柴田郡柴田町）

中国・四国支店（広島市）

工場：滋賀工場（滋賀県蒲生郡竜王町）

土浦つくば工場（茨城県土浦市）

石川工場（石川県能美市）

研究所：技術研究所（滋賀県蒲生郡竜王町）

※事業所の内容につきましては、平成30年5月1日現在にて記載しております。

■ 連結対象子会社	27社
■ 持分法適用会社	2社

※本報告書の記載金額及び株式数については、表示単位未満の端数を切り捨てております。